

2021年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

2021年度は以下の5つの催しを実施することができた。

1. ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」(2021年8月28日、オンライン)

デリダ『ハイデガー——存在の問いと歴史』(亀井大輔、加藤恵介、長坂真澄訳、白水社、2020年)の刊行を記念して、訳者3名により、この講義の内容を多角的に論じるワークショップを開催した。

2. シンポジウム「『アメリカ批判理論:新自由主義への応答』を読む」(2021年9月25日、オンライン)

『アメリカ批判理論:新自由主義への応答』(マーティン・ジェイ、日暮雅夫共編、晃洋書房、2021年)の刊行を記念して、共編者の日暮雅夫氏のオーガナイズにより、日暮氏、訳者の青柳雅文氏、百木漠氏の3名が本書の内容についての発表を行うシンポジウムを開催した。

3. 「柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(2021年、月曜社)合評会」(2021年12月26日、オンライン)

柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(2021年、月曜社)の刊行を記念して、加國尚志氏の司会のもと、辻敦子氏、黒岡佳柁氏、亀井大輔氏が同書についての発表をおこない、著者の柿木氏が応答をする合評会を開催した。

4. 「第二回東アジア間文化現象学会議」(2022年2月26日、オンライン)

2020年2月から延期されていた、中国・中山大学哲学系との共催による日・中・台3か国の国際会議を開催した。日本から亀井大輔氏、佐藤勇一氏、鈴木崇志氏、張政遠氏、中国から張偉氏、廖欽彬氏、方向紅氏、台湾から黄雅嫻氏の総勢8名が発表をおこない、谷徹氏、加國尚志氏、鄭辟瑞氏が討論に参加した。

5. 国際シンポジウム「〈あいだ〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たなはじまり」(2022年3月27日、オンライン)

2020年3月から延期されていた、谷徹・文学部教授の退職を記念する国際シンポジウムを開催した。韓国のナミン・リー氏、ウィーンのエミリア・シュタウディグラー氏とゲオルク・シュテンガー氏が講演をおこない、谷徹氏によるコメント、特定質問者(神田大輔氏、黒岡佳柁氏、蛭子良風氏)の質問により、活発な議論をおこなった。

以上のように、コロナの影響によりすべてオンラインでの実施となったが、コロナ禍により直前で延期となっていた2つの国際会議をオンラインの形で実現できたことを始め、積極的な研究活動を展開することができた。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	加國 尚志	文学部	教授
運営委員	北尾 宏之	文学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	谷 徹	文学部	特任教授
	林 芳紀	文学部	准教授
	亀井 大輔	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	鈴木 崇志	文学部	准教授
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授
	長澤 麻子	文学部	教授
	辻 敦子	文学部	准教授
	神島 裕子	総合心理学部	教授
	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教
	石原 悠子	グローバル教養学部	助教
専門研究員 研究員 初任研究員 補助研究員・リサーチアシ スタント 大学院生 学振特別研究員 (PD・RPD)	松田 智裕	文学部	初任研究員
	榊川 耕平	文学研究科	博士課程後期課程
	有村 直輝	文学研究科	博士課程後期課程
	伊藤 潤一郎	立命館大学	学振特別研究員 PD
	吉松 覚	立命館大学	学振特別研究員 PD
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師
	平尾 昌宏	文学部	非常勤講師
	小西 真理子	文学部	授業担当講師
	杉本 俊介	文学部	授業担当講師
	川瀬 雅也	文学部	授業担当講師
	浅沼 光樹	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	川崎 唯史	熊本大学大学院生命科学研究部	助教
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	黒岡 佳紘	福州大学	教員
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授

	DALISSIER Michel	金沢大学国際基幹教育院	准教授
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科	准教授
	宮崎 裕助	新潟大学人文学部	准教授
	榊原 哲也	東京女子大学現代教養学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	池田 喬	明治大学文学部	准教授
	中澤 栄輔	東京大学大学院医学系研究科	講師
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域人間科学系	准教授
	藤木 篤	神戸市看護大学看護学部	准教授
	吉川 孝	高知県立大学文化学部	准教授
	酒井 麻依子	筑波大学	学振特別研究員 PD
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
	柿木 伸之	広島県立大学	非常勤講師
	西山 雄二	首都大学東京人文科学研究科	准教授
	馬場 靖人	早稲田大学総合人文科学研究センター	招聘研究員
	Gurjanov Filip	間文化現象学研究センター	客員研究員
	丸橋 裕	京都大学大学院医学研究科	非常勤講師
	伊藤 友秀	東京理科大学理工学部教養	准教授
	松田 智裕	早稲田大学社会科学部	非常勤講師
	宮原 優	間文化現象学研究センター	客員研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	松葉 祥一	同志社大学	嘱託講師
	赤阪 辰太郎	人文科学研究所	客員研究員
研究所・センター構成員 計 55 名 (うち学内の若手研究者 計 5 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	亀井大輔	東アジアにおける哲学の生成と展開——間文化の視点から	共著	2022年2月	法政大学出版局	廖欽彬・伊東貴之・河合一樹・山村奨編著	PP. 91~109
2	有村直輝	生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学	単著	2022年3月	晃洋書房		PP. 1~224
3	川崎唯史	メルロ＝ポンティの倫理学 誕生・自由・責任	単著	2022年3月	ナカニシヤ出版		PP. 1~332

4	伊藤潤一郎	ジャン＝リュック・ナンシーと不定の二人称	単著	2022年2月	人文書院		PP. 1~328
5	Toru Tani	<i>Phenomenology of King-Xing - East Asian and European Perspectives on Mind-Nature</i>	共著	2021年6月	Königshausen & Neumann	ed. by Wei Zhang, Wenjing Cai	PP. 66-78
6	谷徹	現象学 未来からの光芒—新田義弘教授追悼論文集	共著	2021年4月	学芸みらい社		PP. 130-141
7	林芳紀	マンガで学ぶ スポーツ倫理	共著	2021年7月	化学同人	伊吹友秀, KEITO	PP. 1-156

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Daisuke Kamei	Дериди а порията на историзма: от текста върху Фуко до „Грамматологията“ (Derrida and the Aporia of Historicism: from the Foucault-essay to Of Grammatology・ブルガリア語訳)	単著	2022年1月	Pironm、第22号		オンラインジャーナルにつき頁数なし、全12ページ	無
2	黒岡佳柱	対話としてのケア—ハイデガーにおけるケア論の可能性とその展望—	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究紀要 128巻		PP. 125-150	有
3	松葉祥一	戦争の弁証法?—『弁証法、戦争、解読』を読む—	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究紀要 128巻		PP.41-52	有
4	松田智裕	応答と課題—デリダをさらに「解読」するために—	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究紀要 128巻		PP. 53-68	有
5	横田祐美子	さらに先へと進んでいくこと—バタイユにおける非知と賭け	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究紀要 128巻		PP. 71-86	有
6	伊藤潤一郎	眠りと思考—ジャン＝リュック・ナンシーにおける思考のリズムについて—	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究紀要 128巻		PP. 105-124	有
7	谷徹	二つの危機と哲学	単著	2021年11月	公益財団法人東洋哲学研究所		PP. 146-168	無
8	鈴木崇志	自分に向けて話すこと、他者に向けて話すこと: ウィトゲンシュタインとフッサール	単著	2021年11月	現代思想		PP. 223-233	無
9	鈴木崇志	現れる他者との向き合い方: 現象学の立場から	単著	2021年11月	現代思想		PP. 226-236	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	亀井大輔	デリダの〈経験〉論(德里达的“经验”论)	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	

2	佐藤勇一	われわれのなかの異邦、異邦のなかのわれわれ —モンテニユとケネーにおけるエコノミーと自然法をめぐって—	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	
3	鈴木崇志	フッサールにおける共同精神と歴史的世界	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	
4	亀井大輔	問いとしての「メシア的なもの」	2021年12月	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(月曜社、2021年)合評会	
5	黒岡佳柱	死者の場所なき歴史と死者と共に生きる歴史——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	2021年12月	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(月曜社、2021年)合評会	
6	青柳雅文	「文化産業」論再考——トランプ時代におけるアドルノの思想の意義	2021年9月	シンポジウム『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む	
7	亀井大輔	歴史からテキストへ——デリダのハイデガー講義における「歴史」の両義性を手がかりに	2021年8月	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	
8	長坂真澄	想像力と事実——歴史概念の新たな相貌——	2021年8月	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	
9	林芳紀	ドーピングのハームリダクションの可能性	2021年9月	京都生命倫理研究会	
10	鈴木崇志	近づくことと離れること：フッサールの「共生」概念を手がかりとして	2022年3月	瀬戸内哲学研究会ワークショップ「共感と理解」	
11	亀井大輔	デリダと虚構性の問い	2021年5月	日本哲学会第80回大会・大会シンポジウム「事実と虚構」	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	オンライン	2021年8月	50名	脱構築研究会
2	シンポジウム『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む	オンライン	2021年9月	50名	
3	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(2021年、月曜社)合評会	オンライン	2021年12月	50名	
4	第2回東アジア間文化現象学会議	オンライン	2022年2月	30名	中山大学哲学系
5	〈あいだ〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たななほじまり	オンライン	2022年3月	40名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	亀井大輔	九鬼周造と德里達—偶然性と事件(九鬼周造とジャック・デリダ——偶然性と出来事)	中山大学哲学系講演会	2021年9月
2	鈴木崇志	フッサールの社会的作用論	瀬戸内哲学研究会公開セミナー「フッサールの倫理学と社会哲学」	2021年10月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	鈴木崇志	日本倫理学会	和辻賞(著作部門)	『フッサールの他者論から倫理学へ』	2021年10月

7. 科学研究費助成事業					
--------------	--	--	--	--	--

